

ワルシャワ美術アカデミー月例報告書【6月】

● 大学

5月後半は、6月の上旬にある学期末の最終プレゼンテーションに向けて、制作活動が活発化してきた。それに合わせて、学内の工房を使う機会が増えた。木材加工や金属加工、3dプリンターなど様々な工房があり、助手の方に聞きながら機械を使うことができる。しかし、助手の方々の中にも英語を話せる方と話せない方がいる。また、学内の施設は基本無料で使うことができる。3dプリンターの利用も無料でできた。一つ意外だったのは、大きな紙を印刷できるプリンターが無く、学外の民間の印刷所でプレゼンテーションのボードを印刷する必要があることだ。しかし、大学からバスで10分ほどの場所に24時間空いている印刷所があるので、そこを利用した。料金はA1グロスコート紙で2000円ほどだ。

留学生用の授業の課外活動でPRL博物館とポーランド民族文化センターに行った。PRLとは1952~1989年の社会主義時代のポーランドの名前である。PRL博物館では、当時のポーランド人の生活や社会、生活に使われていた道具や車等が展示されている。ポーランド民族文化センターでは、ポーランドの地域ごとの民族衣装の違いを中心に、ポーランドの伝統について学ぶことができた。また、ヴィチナンキという伝統的な切り絵も体験することができた。どちらも、英語のガイド付きで案内してもらえる。



- 生活

1. 大型連休「Majówka」

ポーランドでは、「労働者の日」、「ポーランド共和国国旗の日」「憲法記念日」の3つの祝日を含めた連休がある。ちょうどゴールデンウィークと同じ頃である。この休日を利用してポーランド北部へ旅行した。ワルシャワから北部の都市グダニスクまで学割を使って4000円ほどで、かなり安く移動することができる。旅行では、バルト海を見たり、マルボルク城を訪れたりした。これらの観光地はもちろん素晴らしかったが、一番印象的だったのは、電車での移動中の外の風景だ。あたり一面が畑や野原など、すべてが平地で、山が多い日本との違いを顕著に感じて面白かった。

2. 食

イチゴが旬を迎え、よく露店でイチゴを売っている人と大量のイチゴを買っている人をよく見かける。果物の価格が日本より安く、身近にあるのはやはり羨ましい。また、ミルクバーで驚きのメニューを見つけたので食べてみた。イチゴとお米とクリームと一緒に食べる料理である。見た目ですごくショックを受けたが、食べてみると悪くなく、意外とおいしかった。

